



学校便り

令和4年度-NO.9

同時上映「鮭の一生」&「子熊物語」

例えば「鮭の一生」という映画があったとします。自然豊かな山間の川の上流で生まれた1匹の鮭はそこで青年期を過ごした後、大海への冒険に挑みます。大海では様々な仲間や敵との出会いや別れがあり、身も心も大きくなった鮭は、人生の最後に故郷の川へと帰っていきます。その帰路でも紆余曲折があり、さあいよいよ産卵！という時に腹を空かせた熊が現れます。川への帰還ですでに体力を使い果たしている鮭は、熊から逃げる気力も残っていません。熊の鋭い爪が鮭に襲いかかります。さて、このシーンを観ている観客の心情はどのようなものでしょう。きっと「鮭、逃げて」や「熊、どっか行け」という気持ちになるのではないのでしょうか。

この映画と同時上映で「子熊物語」という映画があったとします。冬眠明け、お腹を空かせた母熊は、巣に残してきた我が子のために食べ物を探しています。もうかれこれ一週間近く、何も口にできていません。子熊も日に日に弱っていき、もう立ち上がる体力すらありません。なんとか子熊に食べ物を届けようと必死の母熊は、とうとう川へ辿り着きました。そこには丸々太った鮭が泳いでいるではありませんか！ わずかに残った体力を振り絞り、母熊は鮭を捕まえるべく川へ入っていきます。そして、熊の鋭い爪が鮭に襲いかかります。さて、このシーンを観ている観客の心情はどのようなものでしょう。きっと「母熊、頑張れ」や「子熊、もうすぐ食べ物が届くぞ」という気持ちになるのではないのでしょうか。（※実際には、こんな映画はありません。）

もうお判りでしょう。「鮭の一生」と「子熊物語」には全く同じシーンが出てきます。しかし、それを観た観客の心情は真逆と言っていいでしょう。1つの事象でも見る角度や立場によって感じ方は全く変わります。数年前、武庫小の子どもたちに、クモの巣に蝶がかかっている絵を見て、あなたならどうしてあげたいかを尋ねたことがありました。ほとんどの児童は「蝶を助きたい」と答えたのに対し、「食べないと生きていけないクモのことを考えると助ける義理はない」や「自然の掟だから、そのままにする」という回答もありました。様々な立場に立って物事を考えることのできる素養が育っているのではないかと思います。

日本プロ野球史上、唯一となる3度の三冠王を達成した落合博満さんは、ホームランを打ってもガッツポーズをしませんでした。それは打たれたピッチャーの心情を考えてのことだと、ある対談の中でおっしゃっていたことがあります。今年は卯年です。「ウサギと亀」で負けたウサギの心情も尊重してあげてもよいのかも知れませんね。



今年はさ 競わずゆっくりしましょうよ

(校長 河合 康一)

【1月の予定】

- 10日（火）始業式
- 12日（木）給食開始
- 17日（火）オープンスクール(木曜時間割、6校時なし)、避難訓練
- 18日（水）身体測定(1年)、書初め鑑賞
- 19日（木）身体測定(2年)、書初め鑑賞
- 23日（月）クラブ活動（3年見学）、身体測定(3年)、給食週間開始(~27日)
- 24日（火）身体測定(6年)
- 25日（水）身体測定(のぞみ)
- 26日（木）身体測定(5年)
- 27日（金）身体測定(4年)
- 30日（月）委員会活動

【2月の主な予定】

- 3日（金）地区バスケットボール大会
- 6日（月）クラブ活動
- 8日（水）入学説明会
- 15日（水）参観・懇談
- 16日（木）参観・懇談(低)、児童会役員選挙
- 17日（金）参観・懇談(高)
- 27日（月）委員会活動



【避難訓練について】

1月17日は、尼崎市が主催する「1. 17は忘れない」地域防災訓練が実施されます。本校でも同日、地震避難訓練を行います。ご家庭でも災害時の避難場所や防災グッズの確認など、防災等について見直す機会にいただければと思います。

【きょうちくとう賞】

長年にわたる環境美化活動や社会福祉活動などの善行をたたえる「きょうちくとう賞」に、本校の地域学校協働活動推進員（コーディネーター）である千木良さんが選ばれ市長から表彰されました。地域の夏祭りなどの季節のイベント開催や毎月定例の高齢者の居場所づくり、青少年への自然環境を学ぶ機会の創出など、地域コミュニティの醸成に尽力した功績が認められての受賞です。

市報あまがさき12月号の26ページに、記事とともに市長の横で賞状を持っておられる千木良さんの写真が掲載されています。おめでとうございます。そして、いつもありがとうございます。